

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年7月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104522
法人名	医療法人 サン・レオ会
事業所名	グループホーム ゲンキ館
所在地	鹿児島県鹿児島市上之園町29番地14 (電話) 099-258-7113
自己評価作成日	平成30年6月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pccpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鹿児島市の中心部に位置し利便性の高い場所であり、小学校や、高校に囲まれた閑静な住宅地にある。

人としての尊厳を尊重するという理念に基づいて、懇切丁寧な介護を提供し、皆様と明るく落ち着いた日常が過ごせるように日々努力している

認知症の症状の進行した方でも、適切な対応が出来るようにスタッフ全員、研修を受け取り組んでいる

階下の医療機関で機能訓練としてのリハビリ指導を受け、日常の介護に取り入れている。階下の医療機関は人工透析も行っているので、認知症で透析治療が必要な方の入居も可能である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、母体医療機関が同建物の1階にあり4階がグループホームである。24時間医療連携体制が整っており健康保時や人工透析などの医療面、緊急時の対応等が本人・家族の安心に繋がっている。
- ・尊厳を重視した地域密着型の理念を掲げ、その人らしい暮らしを職員は毎日のケアの中で確認している。利用者の個別の日記の工夫を質問方式で行い毎日の気持ちを把握している。職員との心の交流を大切にしており家族からの信頼が厚い。
- ・管理者は職員の育成に力を入れ、職員の自己研鑽しやすい環境を整え研修会の参加や資格取得に積極的に取り組めるよう支援している。
- ・利用者の機能保持のため、毎朝のリハビリや体操・NHKラジオ体操等を行い、個々のメニューでリハビリを支援している。
- ・外出は利用者の気分転換や季節を感じる機会ととらえ、車椅子の利用者も無理のないように体力を考慮しながら外出を楽しんでいる。年間計画の中から季節毎の花見や水族館・動物公園・地域行事の見物など、家族の協力も得ながら取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「人としての尊厳を尊重する。地域の中で家族と同じような生活を共に過ごす。」を理念とし、職員一同念頭に置き支援に努めている。	尊厳を重視した地域密着型の理念を作成して、玄関やホールに掲示している。週1回のミーティングや認知症研修会の時に振り返りを行い、確認しケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校区の地域の施設として、小学校の児童クラブの子供たちとの交流や近隣の商店などに出かける事、町内会の行事に参加する等交流を図っている	町内会に加入し、役員を務めたこともある。地域の夏祭りの見物や小学校の運動会には招待を受け参加している。日常の散歩や買い物の時はあいさつを交わしている。事業所の敬老会には、児童クラブの子供達が訪問し、歌の披露や会話をしている。踊りのボランティアの来所もあり、地域住民との交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	民生員、家族との繋がりを大切にして、認知症の理解を深めて頂く様に支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2カ月に一回の運営推進会議を行い、状況、行事、評価結果等報告を行い、会議にて出た意見・要望等を今後の支援の参考にしていく。参加出来なかった家族には書面にて報告している</p>	<p>定期的に2ヶ月毎に開催している。ホームの現状報告や行事・外部評価の結果報告を行い、毎回テーマを設けて認知症や感染症・介護について・終末期の迎え方等を話し合っている。外出支援の要望があり、出された意見は、サービス向上に活かしている。会議の内容は全家族にお便りで報告している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>地域包括支援センター等情報交換や連携を図りつつ交流を行っている。市の窓口に出向き、相談を行い助言を頂いている。色々な問題に対応できるように協力関係を築いている。</p>	<p>市担当者とは、窓口に出かけたり電話で相談やアドバイスを受けて日頃から連携を取っている。市の介護相談員も受け入れている。ケア会議には積極的に参加し、協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>入職時や定期的な内部研修を行い、身体拘束をしないケアを第一に考え、介護にあたっている。法人内でも身体拘束・虐待廃止委員会を定期的に開催し、話しあっている</p>	<p>母体法人で身体拘束廃止委員会を1ヶ月に1回実施して、管理者と担当者が参加している。マニュアルを基に言葉の拘束も含め具体的な事例を示し内部研修を行っている。帰宅願望の利用者には、施錠することもあるが、家族には同意を得ている。職員間で連携をとり一緒に散歩したり、寄り添って見守り、危険のないように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的に内部研修を行い、法人内でも会議を開催し、意見を出し合う等している。事例検討等も行い、お互いに注意出来る環境や人間関係を築いている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修を行うとともに、制度を利用されていた利用者様の状況を把握する等し、理解出来るよう努めている</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>面談の場を持ち、要望や疑問・不安等聞き、丁寧な対応を心がけている。納得し了承を得た上で契約・解除を行っている。状況変化等に関してもその都度話し合いの場を設けている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置などを行い、職員間でも家族が話しかけやすくなる環境作りに努めている。要望・助言があった場合には、職員会議にて話し合い、運営に反映している</p>	<p>利用者からは日常のケアの関わりや日記帳から思いを把握している。家族からは面会時に意見や要望を聞いたり、個別の連絡帳で把握している。職員は連絡帳に日々の様子を記入し、話しやすい環境づくりに努め、家族との信頼関係を築いている。意見や要望は話し合って運営に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	信頼関係づくりに取り組んでいる。週一回のミーティング時に出された要望等話し合い、法人全体で考え、改善出来るよう話し合い実行している	日頃から意見を言いやすい環境を整えており、申し送りや週1回のミーティング、月1回の研修の時に聞く機会がある。機能が低下した時のケアについての取り組みやおむつの選択等、全職員で話し合い検討して、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得への協力や介護情報の提供など、やりがいのある介護職への意識作りに取り組んでいる。就業に関しては、個人の希望や条件を聞き、沿えるよう努力、改善し個々にとって働きやすい環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人がスキルアップ出来る様に研修の案内や回覧等で情報提供行っている。また、勉強会や内部研修などを行い、技術の向上にも努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや他事業所と情報交換や交流を図り、情報を得、サービスの向上に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談時において、本人の思いを汲み取る様に傾聴し、ご家族との連携を図り、本人が安心して過ごせるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族の思いや不安を傾聴し、細かに返答を行い、当グループホームを理解してもらうことで不安の解消を図っている。相談しやすい環境づくにも同時に取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人が一番に思っている事を念頭に置き、一番必要である事を理解し合い、支援に反映している。色々なサービスがある事も説明し、対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの経験や生きがいに寄り添える様に努め、無理のない範囲で作業等共に行い、その中で支え合える関係になれるよう取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との絆を大切にし、日々の作業や季節の行事などを出来る限り一緒に行いながら、お互いに思い合える様な関係づくりを支援している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の美容室を利用したり、商店街に買い物に行く等馴染みの関係を維持出来るよう支援している。親戚や親しい友人等気軽に面会できるような雰囲気づくりにも努めている	知人や友人の訪問があり、お茶を出してゆっくりできるように対応している。散歩の時や花屋・魚屋の商店での買い物に同行し、話しかけてもらったりして、馴染みの関係ができていく。手紙や電話の対応もしている。美容室は、訪問や同行することもあり、馴染みの人や場との関係が、途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクレーションを通じ、和やかで楽しいと思ってもらえる様な雰囲気作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や来訪での問い合わせ等、近況を尋ね、関係維持を図り、いつでも気軽に相談できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の意思を尊重し、希望・意向を出来る限り優先している。意思疎通が困難な方でもその方らしい生活ができるよう努めている	日々のケアの関わりから、個々の性格を知るように努めている。会話の時間を工夫して、1対1の入浴時や個別のリハビリ・眠れない時・おやつ等の時間等に対応している。困難な時は、職員間のミーティングや申し送りで連携をとり、家族に状況を話し意見を聞いたりして、本人中心の生活ができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に話を聞き、今までの生活習慣や趣味など配慮した生活が継続し支援できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どのような生活リズムで過ごしてこられたのか把握できるよう観察し、利用者一人一人が気持ちよく過ごせるよう努力している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望や意向を基に主治医やスタッフの意見、日々の記録やミーティングからの情報を参考にモニタリングを行い、現状にあった介護作成計画に努めている	家族の面会時に、本人や家族の希望を聞き主治医の意見を入れ、職員の意見を踏まえ、モニタリング・カンファレンスをして介護計画を作成している。見直しは6ヶ月で行い、状況が変化した時は、その都度現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援誌を作り、個々の日々の様子、ケアについて職員が共有できるようにしている。朝、夕と二回申し送りを行い、変化に迅速に対応できるよう取り組んでいる。状態変化がみられる場合は計画書の見直しも随時行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関と医療連携が出来ていて、状況変化に応じて往診や看護師との連携もあり、本人のニーズに対応している。リハビリの充実化も図っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生員や地域の方々の協力や助言を得、校区の児童クラブの生徒たちとの交流を図っており社会とのつながりの実感が持てるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を優先し、納得の下、階下の協力医療機関がかかりつけ医となっている。他科受診時は基本的に家族に同行して頂くが、状況により職員でも同行出来るよう努めている	本人・家族の希望を大切にして協力医療機関がかかりつけ医になっている。週に1回往診がある。歯科は訪問診療であり他科受診は家族が同行しているが、状況では職員が同行することもある。受診結果は電話でしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>状況や状態に応じて、いつでも連携が取れる体制になっている。週に一度の定期的な受診と健康管理を行い、24時間対応出来る体制になっている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には主治医より紹介状を書いてもらい、情報提供を行っている。日々の状態や支援などは医療機関に介護情報提供書を作成し、早期に治療、退院が出来るよう情報を提供している</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に重度化の対応、終末期のあり方については、施設の方針や体制の説明を行っている。本人と家族の意向や希望を優先し、主治医やスタッフと常に連携を図り、可能な限り対応できるよう努めている</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針の指針があり、入居時に本人・家族に説明して、同意してもらっている。状況の変化に伴い、その都度、家族と主治医と話し合いを重ね、家族の意向を聞きながら、利用者にベストな方向で対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急マニュアルを作成している。応急手当や初期対応に関しては、訓練を行いながら実践に活かせるようにしている。定期的にマニュアルの見直しを行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回、消防署の協力の下、避難訓練を実施している。マニュアル作成をしており、法人全体の職員が速やかに対応できるよう周知している</p>	<p>年2回消防署の立ち合いのもと、昼夜間想定して火災・水害・地震の避難訓練を実施している。マニュアルを作成して、法人全体の職員が対応できるようにしている。スプリンクラー・防火扉・自動通報装置の点検を行っている。避難経路・避難場所の確認をしている。地震の時の自主訓練も個別に行ったり、不要な物の撤去・シーツや毛布のタンカの工夫などを訓練している。持ち出し用の個人ファイルや備蓄も法人で水・食料などを用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、目上の方である事を常に意識し、失礼の無いよう努めている。なれ合いから来る言葉遣いや態度に注意を払い、プライバシーにも気をつけケアしている	マニュアルを作成している。法人で研修や勉強会を実施し、親と思って接している。人格を尊重し、プライバシーを傷つけないように努めている。トイレ誘導時はさりげない声かけや入室時のノック・名前の呼び方等、配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意見を第一に、自己決定出来るよう支援している。日常生活の中で声掛けなどを行いながら、介護者の独りよがりにならないよう注意し、希望に沿えるよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は有るが、個人の生活ペースを尊重している。他の方との関係性にも注意しながら一緒に過ごす時間を設け、その方にあった日常を過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の好みや主張を第一に取り入れている。更衣の際の服を選んでもらうことから行っている。スカーフなど家族の希望にも沿えるよう努力している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけ等出来る範囲にて利用者とともにしている。食事が楽しみな時間になる様に会話をしたり、ラジオや音楽をかける等工夫している	栄養士作成の献立で、食事の形態や量にも配慮している。厨房で作り盛り付け等をグループホームで行い、利用者と一緒にしている。忘年会にはバイキング方式、行事食のひな祭りにはちらし寿司等作っている。嚥下体操を昼食前に行い、音楽を聴きながら、食事が楽しくできるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は栄養士の指導の下、個人にあった形態とカロリーにて提供している。水分も最低摂取量を定めており、出来るだけ飲んで頂くよう声掛けしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔や状況の把握を行っている。歯科医師からの指導を受け、清潔保持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄チェック表に記入し、排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。日中はトイレを使用し、オムツ使用を減らし、自立に向けた取り組みを行っている	個別に排泄支援帳を作り、トイレ誘導の時間を把握している。車椅子の利用者も日中はトイレで行い、オムツやポータブルトイレは夜間のみ使用している。寝たきりの利用者が立位支援で対応ができたり、尿パットの使用が少なくなり、軽費軽減になった例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、週一回の主治医の受診時に相談し、指導・薬の処方を受けている。水分補給や適度な運動等も積極的に取り入れている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は定めてはいるが、本人の希望に沿っていつでも入浴ができるよう柔軟に対応している。拒否などがみられた場合、無理はせず本人のペースに合わせてケアしている	入浴は週に3回午後を目安に行っているが、本人の希望を聞いて日曜日でも入浴でき柔軟に対応している。希望で入浴剤の使用をしている。清拭や足浴も行っている。脱衣所は室温に配慮している。入浴を拒む時は、無理しないで本人のペースに合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンにより、体調を考慮し、自室で休まれたり、ホールにて過ごされたりとそれぞれが気持ちよく過ごせるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を処方箋で確認し、内容変更等も常に把握し、理解に努めている。状態変化が見られた場合は主治医に報告し、職員間でも共有できるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人一人出来る事を役割として取り組んでいる。レクレーションでは一緒に壁紙を作る等共にし、達成感のある取り組みをしている</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>家族の協力の下、ご自宅に帰ったり、食事に出かけたりする。ホームでは近く的美容室に出かけたり、買い物や散歩などに行っている。行事では花見や水族館など家族と一緒に出かけられる外出も取り入れている</p>	<p>日常は散歩やコンビニに買い物に行ったり、近くの桜を見に出かけている。年間計画をたてて、動物公園・水族館・コスモスや桜の花見など、車椅子の利用者も一緒に出かけ、家族の協力を得ながら支援している。家族と外食や外出することもある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族より金銭を預かり、買い物や外出の際の支払いをする時も本人にして頂くよう支援している</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の意向の下、家族や大切な人と電話やはがきなどのやり取りができるよう支援している。年賀状や暑中見舞いを家族あてに書き館内に展示を行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は季節感などを出せるよう植物を飾る等工夫し、空気の流れ替えや温度調整にも気をつけている。広くて開放感のある共同部分は清潔で家庭的な居心地のいい環境作りを心掛けている	玄関に利用者の習字が貼ってあり、共用空間は温度・湿度・換気に配慮があり、広く明るく開放的である。窓から昼夜変化のある街を一望できる。ソファもあり、ゆっくりとテレビを見たり懇談をしている。畳の部屋もありくつろげる場所になっている。季節感のある作品を掲示して、居心地の良い環境づくりが工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの席を作り、食事やレクリエーション、ゲーム等気のあった者同士で和気あいあいとした雰囲気作りをしている。楽しいと感じて頂ける様な場所を提供できるよう工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の希望を家族と本人と話し合い、馴染みのものや好みものを置くなどして安心して過ごせるよう工夫している	エアコンやベッド・クローゼットが設置してあり、家から持ち込まれた衣装ケース・ダンス・ハンガー・小物・家族写真等が置かれ、敬老会での表彰状も飾ってあり、安心して過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、玄関や廊下等、安全に生活出来るよう環境整備し、自分の居室がわかるような工夫もしている。自立支援を第一に無理のないよう支援している		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない